ONKYO®

デジタルサラウンドシステム

HTX-22HDX

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

※マイコンのリセットについては、49ページをご覧ください。

目次

はじめに

接続する

再生する

目次

リスニングモードを楽しむ

設定をする

その他

主な特長

5.1チャンネルアンプ内蔵サブウーファー

■ RIHD対応TVのリモコン1つで他社製TVと本機がシステムリンク(RIHD)
■ 電源・GND強化にBUSBAR採用
■ 24ビット/192kHz D/Aコンバーター搭載
■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC[*1]（Vector Linear Shaping Circuitry）搭載
■ 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■ 高品位な低音増強を可能にするバスレフ技術「AERO ACOUSTIC DRIVE」を搭載
■ ドルビー[*2]デジタルプラス、ドルビーTrueHD再生可能
■ DTS[*3]-HDハイレゾリューションオーディオ、DTS-HDマスターオーディオ、DTS Express再生可能
■ AAC[*4]デコーダー搭載
■ 高品位バーチャルサラウンド機能「Theater-Dimensional[*5]」搭載
■ ゲームを楽しむための4つのリスニングモード（Game-RPG/Game-Action/Game-Rock/Game-Sport）
■ 圧縮された音楽ファイルをより良い音で楽しむMusic Optimizer[*6]機能搭載
■ 音声と映像のズレを補正するAVシンクコントロール機能搭載
■ 小音量でもサラウンドを楽しめるLATE NIGHT機能（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD時のみ）
■ 機器間の音量差を減らすIntelliVolume機能搭載
■ テレビ画面を見ながら本機の設定ができるOSD（On Screen Display）機能搭載
■ デジタル音声/映像信号を1本のケーブルで伝送可能なHDMI[*7]入力3系統、出力1系統装備
■ デジタル入力端子として光2系統/同軸1系統装備

フロントスピーカー

■ ウーファー振動板には、力強さと小口径8cmユニットの緻密さを併せ持つ再現性豊かなOMFコーンを採用

*1 VLSCは、オンキヨー株式会社の登録商標です。
*2 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*3 米国特許：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTSはDTS社の登録商標です。DTSロゴ、記号はDTS社の商標です。
© 1996-2008 DTS, Inc. All Rights Reserved.
*4 AACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*5 Theater-Dimensionalは、オンキヨー株式会社の商標です。
*6 Music Optimizerは、オンキヨー株式会社の商標です。
*7 HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、米国および他の国々におけるHDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
＊x.v.Colorは、ソニー株式会社の商標です。
＊iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表わす記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告	誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた
△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⊘記号は「〜してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの天面、背面に通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない（本機の天面、背面、横から20cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

⚠ 警告

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔、ダクトから異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■ 長期間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■ 乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、表示通りに入れる

■ 電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

注意

スピーカーを壁に取り付けるときは、壁の材質、また、桟などの位置に注意してください。（ネジの保持強度に大きな差が出ますので、販売店にご相談ください。）

■ 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

⚠ 注意

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災･感電の原因となります。

■ 電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■ 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量に注意する

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

■ キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない

禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったり、データが消失することがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。落下や転倒してけがの原因となります。サランネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

■ 機器内部の点検について

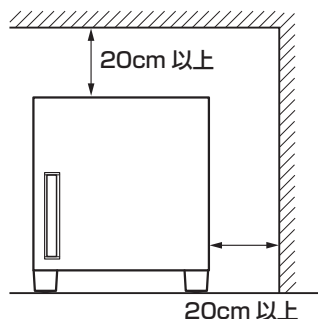
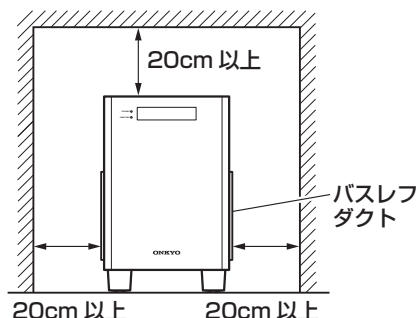
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

取り扱い上のご注意

■設置時のご注意

本機は熱くなりますので、放熱のために、天面、背面に通風孔があけてあります。
設置する場合は、下図のように天面、背面から20cm以上離してください。また、側面にもバスレフ用のダクトがありますので、ダクトを塞がないよう壁などから20cm以上離してください。

■お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
スピーカーのサランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

■テレビやパソコンとの近接使用について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
付属のフロントスピーカー（HTX-22HDXST）は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

ご注意

アンプ内蔵サブウーファー（HTX-22HDXPAW）は防磁設計を施していませんので、ブラウン管を使用しているテレビなどとの使用は画面に影響を与えないよう40cm以上離して設置してください。

■取り扱い上のご注意

本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

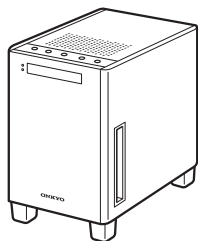
箱を開けたら、まず

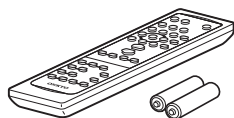
箱の中身を確認する

ご使用の前に次のものがそろっていることをお確かめください。(　)内の数字は数量を表しています。

● アンプ内蔵サブウーファー（1）
（HTX-22HDXPAW）

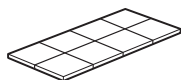
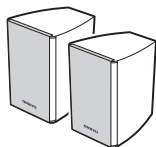
● オーディオ用
光デジタルケーブル 1.5m（1）

● サブウーファー用
ゴムスペーサー（4）

● リモコン（RC-678S）（1）
● 乾電池（単3形）（2）

● 電源コード（1）

● 取扱説明書（本書)（1） ● 保証書（1） ● オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内（1）
● ユーザー登録カード（1）

● フロントスピーカー
（HTX-22HDXST）（2）

● スピーカーコード
（フロントスピーカー用）3.5m
（赤 2）

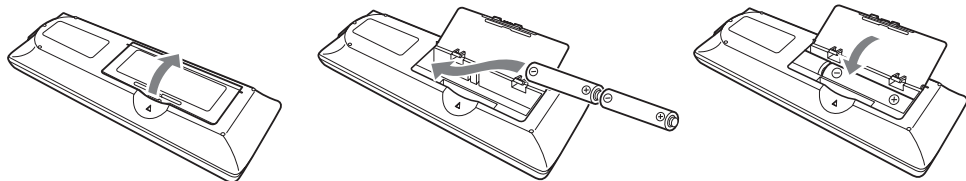
● フロントスピーカー用
ゴムペーサー（1 組 〈8 個〉）

音のエチケット

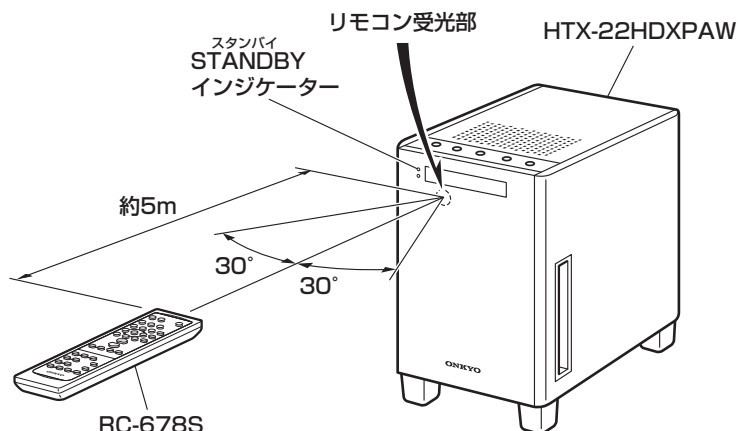
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも
ひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

リモコンの乾電池の入れかたと交換のしかた

① カバーを矢印の方向に持ち上げる。

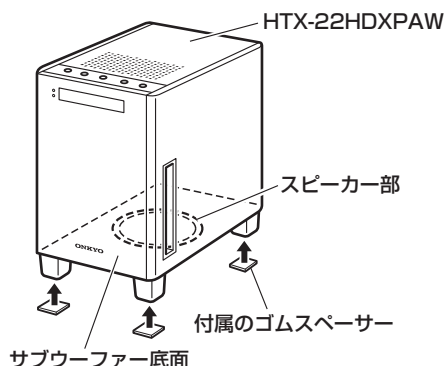
② 中の極性表示にしたがって、付属の電池2個をプラス⊕、マイナス⊖を間違えないように入れる。

③ カバーを戻す。

リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池（単3形）と交換してください。
- 電池の極性（⊕、⊖）は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用は避けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

付属のスペーサーを使う

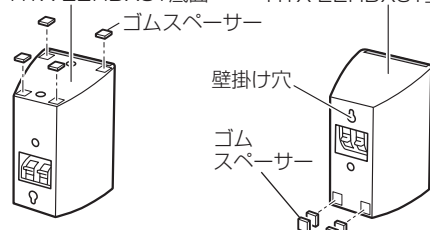
■ サブウーファー(HTX-22HDXPAW)用ゴムスペーサー

より良い音でお楽しみいただくために、付属のゴムスペーサーのご使用をおすすめします。サブウーファーの脚4ヶ所の裏に付属のゴムスペーサーを貼り付けてください。
また、ゴムスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

ご注意

ゴムスペーサーを貼り付ける際にサブウーファーを持ち上げるときは、上図のサブウーファー底面にあるスピーカー部に手がかからないようにしてください。

■ フロントスピーカー(HTX-22HDXST)用ゴムスペーサー

より良い音でお楽しみいただくために、付属のゴムスペーサーのご使用をおすすめします。
また、ゴムスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

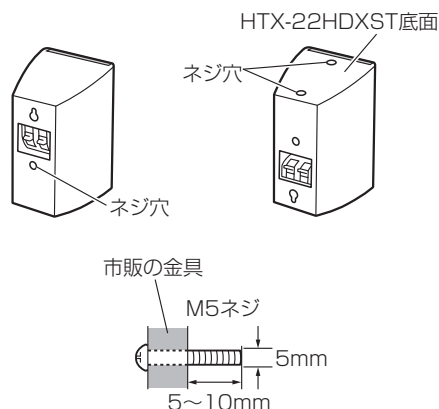
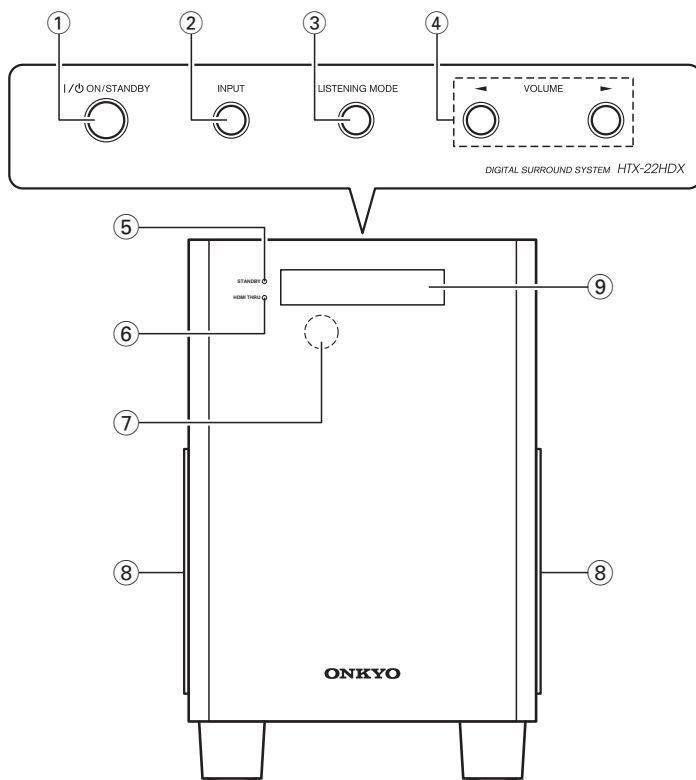
置いて使用する場合　**壁に掛けて使用する場合**

ゴムスペーサーは2枚重ねて2ケ所に貼り付けると、安定して設置できます。

ご注意

壁に掛けて使用する場合、壁の強度に十分注意してください。壁はその材質、また桟（さん）などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては十分注意してください。
壁につけるネジは、頭の直径が4mm以上10mm以下、ネジの直径が4mm以下で、できるだけ太く、長いものをご使用ください。（壁等に取り付ける際は、専門施工業者へ依頼することをおすすめします。取り付けの不備によって損害や事故が発生した場合、当社では一切責任を負うことができませんのでご了承ください。）

■ 市販のスタンドや金具を使って固定するには

市販のスタンドや金具を使用できるように、スピーカーの背面にM5用ネジ穴1個、底面にピッチ60mmでM5用ネジ穴を2個設けています。
取り付け方法については、ご使用になるスタンドや金具の説明書をご覧ください。
スタンドや金具をご使用になるときは、スタンドや金具の厚みを差し引いた有効ネジ長が5〜10mmのものをご使用ください。

各部の名前と働き

前面パネル

① ON/STANDBYボタン
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② INPUTボタン
入力を切り換えます。

③ LISTENING MODEボタン
リスニングモードを切り換えます。

④ VOLUME ◀ / ▶ ボタン
音量を調整します。

⑤ STANDBYインジケーター
スタンバイ状態のときや、リモコンの信号を受信すると点灯します。

⑥ HDMI THRUインジケーター
HDMI THRU機能（☞45ページ）が働いているときに点灯します。

⑦ リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。

⑧ バスレフダクト部

⑨ 表示部
13ページをご覧ください。

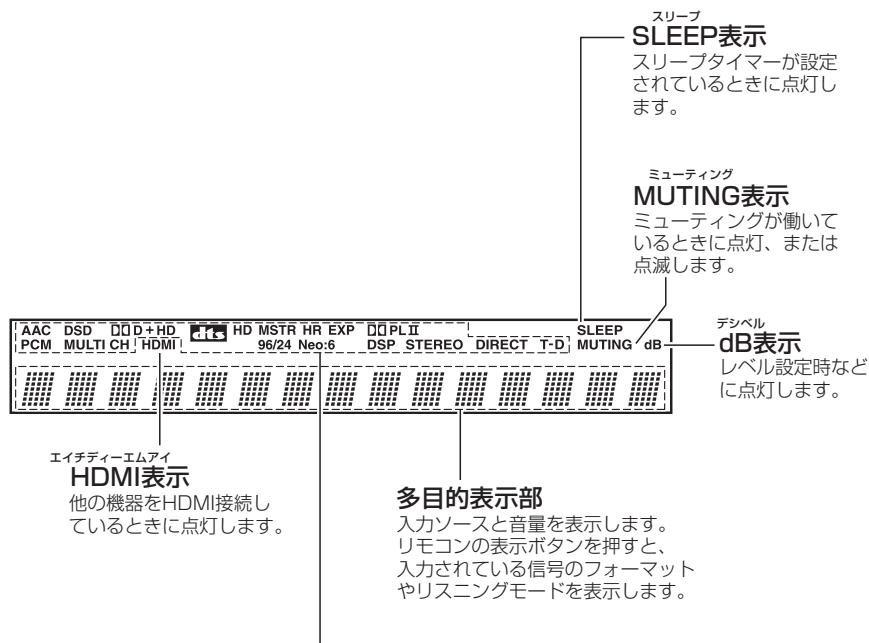
表示部

SLEEP表示
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

MUTING表示
ミューティングが働いているときに点灯、または点滅します。

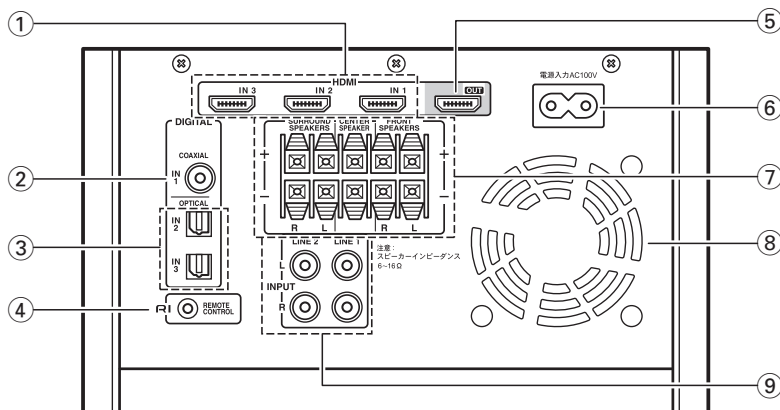
dB表示
レベル設定時などに点灯します。

HDMI表示
他の機器をHDMI接続しているときに点灯します。

多目的表示部
入力ソースと音量を表示します。
リモコンの表示ボタンを押すと、入力されている信号のフォーマットやリスニングモードを表示します。

デジタル入力信号フォーマット/リスニングモード表示
入力されているデジタル信号の種類およびリスニングモードを表示します。

入力信号表示

表示	入力信号
PCM	PCM
DD D	Dolby Digital
dts	DTS
AAC	AAC
DD D+	Dolby Digital Plus
DD HD	Dolby TrueHD
dts EXP	DTS Express Audio
dts HD HR	DTS-HD High Resolution Audio
dts HD MSTR	DTS-HD Master Audio
DSD	Direct Stream Digital
T-D	Theater-Dimensional

後面パネル

エイチディーエムアイ イン
① **HDMI IN 1/2/3端子**
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子です。

デジタル イン コアキシャル
② **DIGITAL IN1(COAXIAL)端子**
デジタル音声の入力端子です。市販の同軸デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器を接続します。

デジタル イン オプティカル
③ **DIGITAL IN2/3(OPTICAL)端子**
デジタル音声の入力端子です。付属のオーディオ用光デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器を接続します。

リモート コントロール
④ **RI REMOTE CONTROL端子**
RI 端子付きのオンキヨー製品と接続し、連動させるための端子です。RI ケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

エイチディーエムアイ アウト
⑤ **HDMI OUT端子**
本機からデジタル音声/映像信号を出力する端子です。

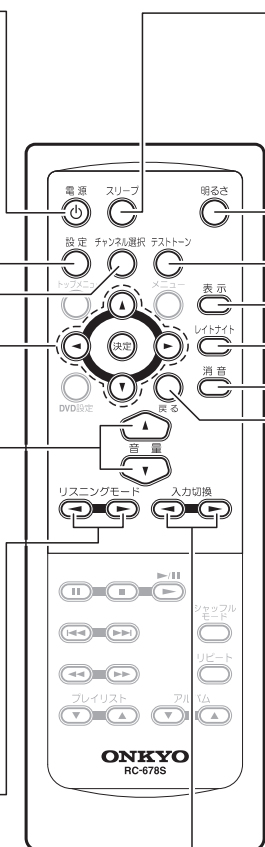
⑥ **電源入力AC100V端子**
付属の電源コードを接続します。

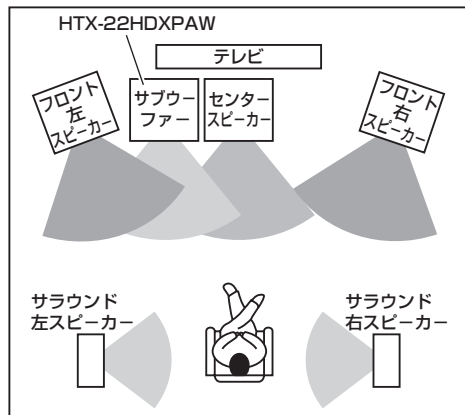
スピーカー
⑦ **SPEAKERS端子**
フロント センター サラウンド
(FRONT/CENTER/SURROUND)
左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーを接続する端子です。

⑧ **放熱用ファン**
本体内部の熱を逃すためのファンです。

ライン インプット
⑨ **LINE 1/2 INPUT端子**
オーディオ用ピンコードでビデオデッキなどのライン出力(アナログ)端子と接続します。

リモコン(RC-678S)

● 本機を操作するときのボタン

ホームシアターを楽しもう

センタースピーカーやサラウンドスピーカーを追加してホームシアターを楽しみましょう。本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。再生する信号や、接続するスピーカーの数によって、DTSやドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

5.1チャンネルの配置例

左図のように、すべてのスピーカーを接続すると最も理想的なサラウンド効果を得ることができます。しかし、センタースピーカーやサラウンドスピーカーがないときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから出力される音声を他のスピーカーに最適に配分し、現在のスピーカー構成で可能なサラウンド効果を最大に引き出します。

サブウーファー（HTX-22HDXPAW）
低音のみを出力し、迫力ある重低音効果を最大限に発揮します。

ご注意

サブウーファー側面には、バスレフ用のダクトがありますので、ダクトを塞がないよう壁などから20cm以上空間をあけてください。（☞8ページ）

左右フロントスピーカー（HTX-22HDXST）
総合的に音声を出力します。ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。視聴位置の前方に配置します。音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対称が理想です。

センタースピーカー（本機には付属していません）
左右フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置してください。左右フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

左右サラウンドスピーカー（本機には付属していません）
臨場感を高める役割を果たします。効果音などで音の立体的な動きを表現します。視聴位置の横または後斜めに配置します。左右対称で視聴者の耳より１m高い位置が理想です。

本機と接続するスピーカーの使いかた

本機以外に現在お持ちのスピーカーの数により、そのスピーカーを下図のように各チャンネルのスピーカーとして使用することができます。

スピーカー数 ＼ 使用スピーカー	2	3	4	5
左右フロントスピーカー（HTX-22HDXST）付属品	○	○	○	○
センタースピーカー		○		○
左右サラウンドスピーカー			○	○

！ヒント

弊社では、増設用のスピーカーとして、下記の製品を別売にてご用意いたしております。
- センタースピーカー D-22XC
- サラウンドスピーカー D-22XM

接続の前に

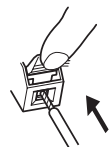
付属のスピーカーコードの準備をします。

① **スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。**

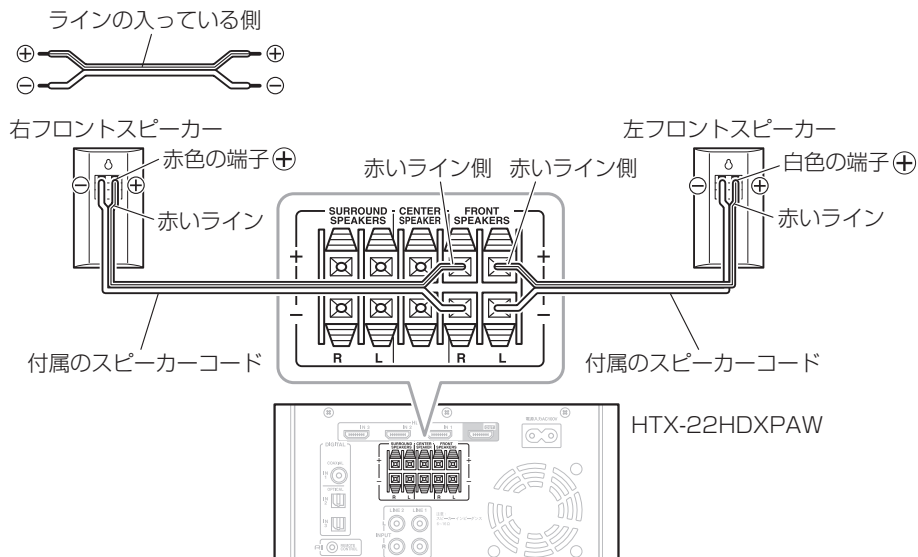
② **しん線をよじります。**

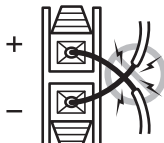
スピーカー端子への接続方法

① **レバーを押します。**

② **しん線を穴の中に入れます。**

③ **レバーを離します。**

付属のスピーカーだけを使った基本の接続

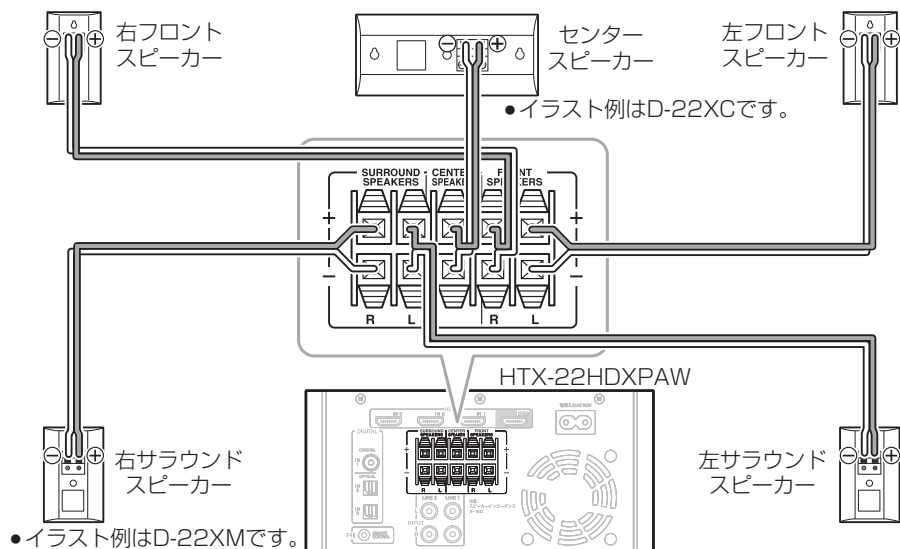
付属のスピーカー（HTX-22HDXST）を接続します。ここでは､スピーカーを左右フロントスピーカーとして使用する場合の接続方法を説明します。スピーカーコードに入っている線を参考に、スピーカーのプラス ⊕ と本機のプラス ⊕、スピーカーのマイナス ⊖ と本機のマイナス ⊖ を接続します。

ご注意

プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

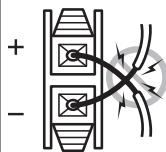
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを絶対に接触させないでください。また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。

複数のスピーカーを使った接続をする

付属のスピーカーに加えて別売スピーカー（D-22XC、D-22XMなど）をご使用になると、5.1チャンネル音声をお楽しみいただけます。
使用されるスピーカーの数によって、接続する端子を選んでください。
組み合わせるスピーカーは6Ω以上のものをご使用ください。スピーカーのプラス⊕と本機のプラス⊕、スピーカーのマイナス⊖と本機のマイナス⊖を接続します。

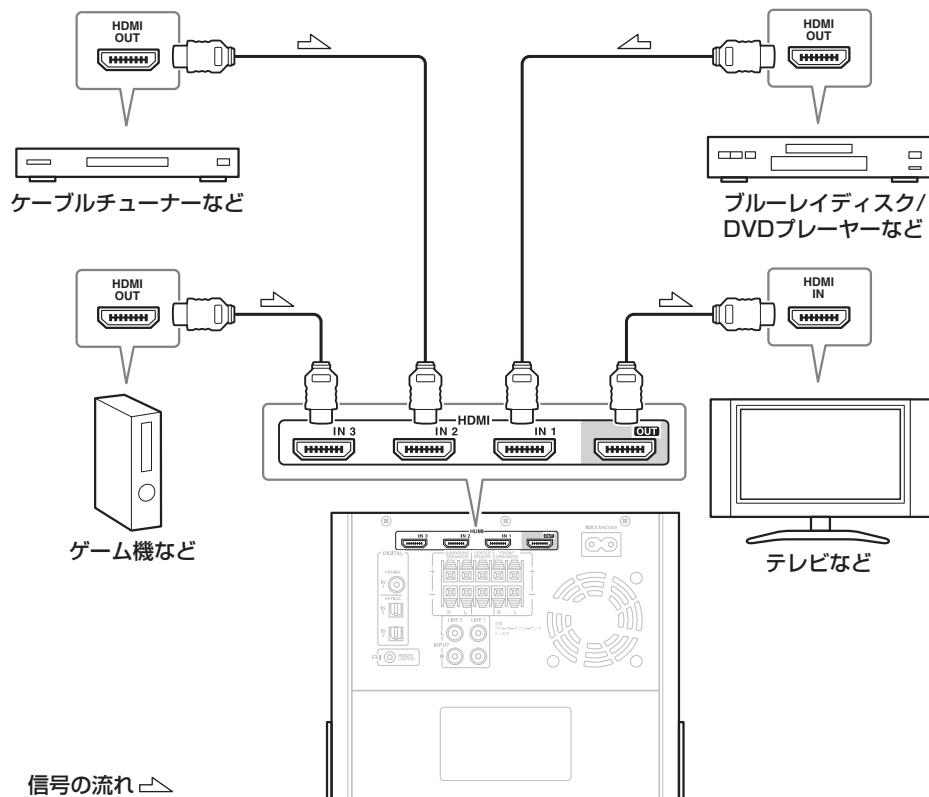
■ 5.1チャンネル接続の場合

ご注意

プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを絶対に接触させないでください。また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。

HDMI端子を使ってAV機器を接続する

接続のしかた

HDMI接続では、HDMIケーブルで映像信号と音声信号を同時に伝送することができます。
HDMIケーブルを使って本機のHDMI端子とDVD/ブルーレイレコーダーやブルーレイディスク/DVDプレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどのHDMI端子と接続してください。

■ 映像信号の流れ

HDMI IN（イン）端子から入力したデジタル映像は、HDMI OUT（アウト）端子からのみ出力されます。

■ 音声信号の流れ

HDMI IN 端子から入力したデジタル音声は、HDMI OUT端子および本機に接続されたスピーカーへ出力されます。

HDMI IN端子に接続した機器の音声をテレビで聞きたいときは

- TV Ctrl（コントロール）設定を「On（オン）」に設定（テレビがRIHD対応の場合）（☞46ページ）
- Audio（オーディオ） TV Out（アウト）設定を「On」に設定（テレビがRIHD対応していない場合、またはTV Ctrl設定が「Off（オフ）」の場合）（☞44ページ）
- DVDプレーヤー側の音声出力設定を「PCM」に設定

ご注意

- **HDMI機器の音声を本機で聞く場合は、テレビにHDMI機器の映像が映る状態にしておいてください。**
  （本機が接続されているHDMI入力をテレビ側で選んでください）HDMIは、映像機器側の認証により映るしくみになっているため、テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。
- Audio（オーディオ） TV Out（アウト）設定が「On（オン）」のとき、テレビのスピーカーから音を出していると本機の音量を操作したときに本機に接続したスピーカーからも音が出ます。また、TV Ctrl（コントロール）設定が「On」のとき、RIHD対応テレビのスピーカーから音を出していると、本機の音量を操作したときにテレビが消音されている間は本機に接続したスピーカーからも音が出ます。スピーカーからの音を出さないようにするには、本機の設定やテレビの設定を変更してください。または、本機の音量を下げてください。

ARC（オーディオリターンチャンネル）機能について

この機能はHDMI接続したテレビから本機のHDMI出力端子に映像音声信号を送る機能です。この機能を使用するためには、テレビがARCに対応していることが必要です。

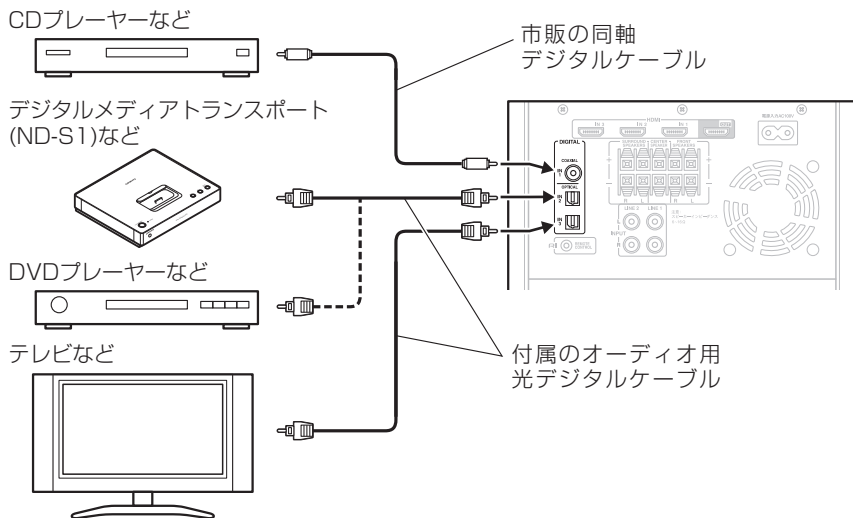
- 設定のしかたは45ページをご覧ください。

AV機器やゲーム機を接続する

- HDMIに関する接続は、19、20ページをご覧ください。
- DVDプレーヤーなどでドルビーデジタル、DTSサラウンド信号を再生するためには、DIGITAL IN（COAXIAL IN1またはOPTICAL IN2/3）端子への接続が必要です。
- パソコンでデジタルサラウンドを楽しむには、デジタル出力〔OPTICAL（光）またはCOAXIAL（同軸）〕に対応したパソコンや音源ボードが必要です。お手持ちの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

デジタル音声機器の接続をする

デジタル音声機器を付属のオーディオ用光デジタルケーブルまたは市販の同軸デジタルケーブルで接続します。接続する機器に付いている端子の形状に合ったケーブルをご使用ください。
本機では音声接続のみです。映像接続は映像機器から直接テレビに接続してください。

！ヒント

- オーディオ用光デジタルケーブルを使用するときは、折り曲げたり、きつく巻いたりしないでください。
- 接続する機器のデジタル音声出力設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によってはドルビーデジタル信号やDTS信号の出力設定が「オフ」になっていることがあります。
- 本機のDIGITAL IN(OPTICAL IN2/3)端子は、とびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにしてオーディオ用光デジタルケーブルを差し込んでください。
- 本機にはインテリボリューム機能があります。機器間の音量差が気になる場合にお使いください。(☞43ページ)
- 本機にはMusic Optimizer機能があります。MP3などの音楽信号（48kHz以下のPCM信号）をお聞きになるときにお使いください。（☞43ページ）

オーディオ用光デジタルケーブルは、まっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

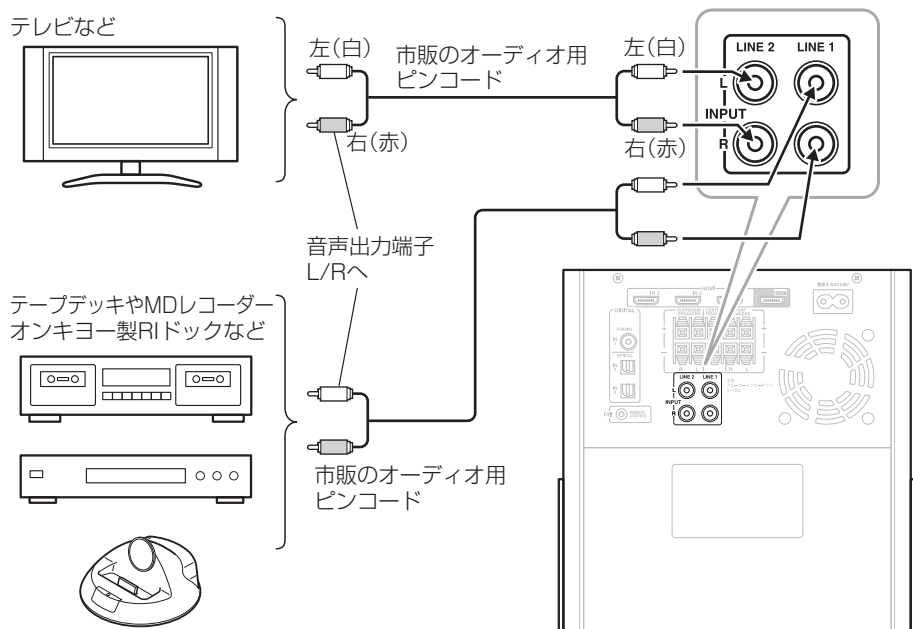
すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

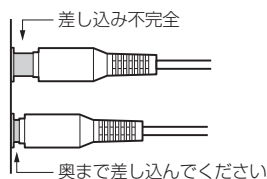
アナログ音声機器の接続をする

テレビやビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機のLINE（ライン） 1/2 INPUT（インプット）端子を市販のオーディオ用ピンコードで接続します。接続した機器の音声がアナログでサラウンド再生されます。

テレビなど

左（白）
市販のオーディオ用ピンコード
右（赤）
左（白）
右（赤）
LINE 2 LINE 1
L
INPUT
R
音声出力端子L/Rへ

テープデッキやMDレコーダーオンキヨー製RIドックなど

市販のオーディオ用ピンコード

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

！ヒント

- RI機能のあるオンキヨー製品と連動させてご使用になるときは、23ページをご覧ください。
- 本機にはMusic（ミュージック） Optimizer（オプティマイザー）機能があります。MP3などの音楽信号をお聞きになるときにお使いください。（☞43ページ）

システム機能について

オンキヨー製品との連動について

RI機能のあるオンキヨー製品で接続すると、次のシステム機能を使うことができます。

オートパワーオン

本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。
また、本機の電源を切ると、接続されている機器全体の電源が切れます。

ダイレクトチェンジ

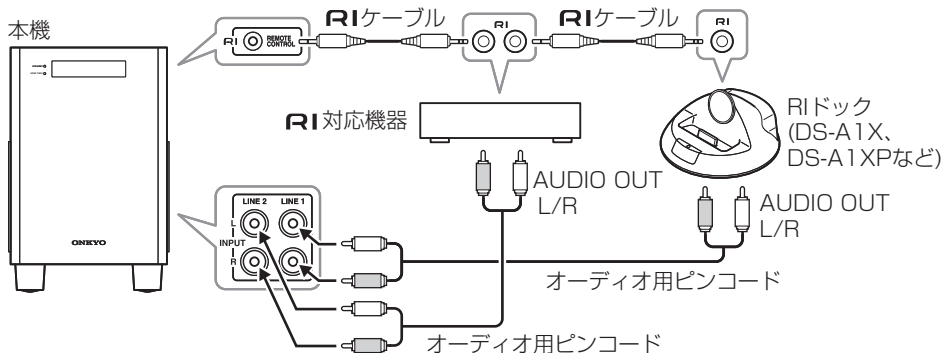
本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。（☞24ページ）

■ システム機能を使用するための手順

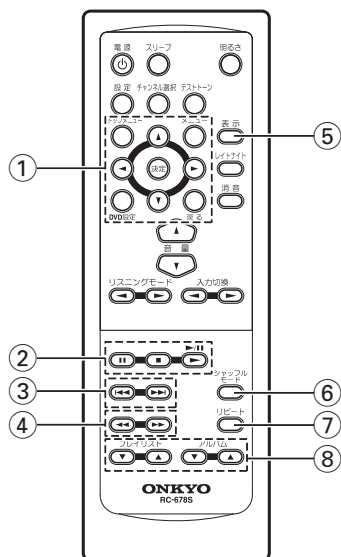
1.本機と各機器をRIケーブルで接続します。

RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機にはRIケーブルは付属していません。各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。）

- RI端子はRI端子付き製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- 接続が正しくないと各機能は働きません。上記を参照しながらオーディオ用ピンコード、RIケーブルを正しく接続してください。
- ND-S1以外の機器の場合、システム機能を使用するためにはアナログ音声接続が必要です。
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

2.本機の入力表示名を変更します。（☞48ページ）

■ リモコン操作できるオンキヨー製品

DVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダー、カセットテープデッキ、RIドック、デジタルメディアトランスポート（ND-S1）

● 機器の接続については21、22ページを、RI接続については前ページを、入力表示については48ページをご覧ください。所定の接続や設定をしないと、下記の操作はできません。

ご注意

- 空欄はボタンを押しても動作しません。
- 第3世代iPodの場合、▶/II、⏮/⏭、◀◀/▶▶ボタンのみ働きます。
- iPodのファームウェアのバージョンアップ等により、操作できる機能の範囲や内容が変更になることがあります。
- それぞれのボタンの働きについての詳細は、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 入力が「DVD」、「DOCK」のときは、スタンバイ時に▶（プレイ）ボタンを押すと本機の電源が入り、接続している機器の再生が自動的に始まります。
- DVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダー、カセットテープデッキ、RIドックを操作するためには、各機器は本機のLINE（ライン）1または2端子とアナログ音声接続が必要です。また、接続した端子の入力表示名を機器に合わせて変更してください。（☞48ページ）
- ND-S1とRIドックの両方を接続しているときは、ND-S1を接続している入力表示名はDOCK（ドック）を選び、RIドックを接続している入力表示名はTAPE（テープ）またはMDを選んでください。
  表示名が異なってもシステム動作は働きます。
- リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

	入力名称 / リモコンのボタン名	DVD	CD/MD/CDR	DOCK	TAPE
①*1	トップメニュー	TOP MENU		iPod/PC*3	
	メニュー	MENU		MENU	
	▲/▼	▲/▼		▲/▼	
	◀/▶	◀/▶			
	決定	ENTER		SELECT	
	DVD設定	SETUPまたはDVD SETUP		SYNC/UNSYNC*3	
	戻る	RETURN			
②	II	II	II	II	PLAY◀
	▶（▶/II）	▶	▶	▶/II	PLAY▶
	■	■	■		■
③	⏮/⏭	⏮/⏭	⏮/⏭	⏮/⏭	◀◀/▶▶
④	◀◀/▶▶	◀◀/▶▶	◀◀/▶▶	◀◀/▶▶	
⑤	表示	DISPLAY*2	DISPLAY*2	BACKLIGHT*2	
⑥	シャッフルモード	PLAY MODE	ランダム	SHUFFLE	
⑦	リピート	リピート	リピート	REPEAT	
⑧	プレイリスト▲/▼			PLAYLIST▲/▼	
	アルバム▲/▼			ALBUM▲/▼	

*1 設定、チャンネル選択、テスト音の操作中は、▲/▼/◀/▶/決定/戻るボタンはHTX-22HDXPAWを操作するボタンとして働きます。このとき、トップメニュー/メニュー/DVD設定ボタンは働きません。
*2 3秒間長押しすると、記載の機能として働きます。
*3 ND-S1操作時のみ働きます。ND-S1のSYNC（シンクロ）/UNSYNC（アンシンクロ）を切り換えます。UNSYNC状態にするには、2秒以上押します。

■ ND-S1/RIドックとの連動について

使用できるシステム動作については、23ページをご覧ください。

iPodのアラーム機能について

iPodのアラーム機能で再生が始まると、本機も電源が入り、入力もND-S1/RIドックを接続した入力に切り換わります。

ご注意

- iPodをビデオ再生する場合やiPodのアラームが音色再生のときは連動しません。
- iPodをND-S1やRIドックにセットしているときは、iPodの音量調整は効果がありません。

操作時のご注意

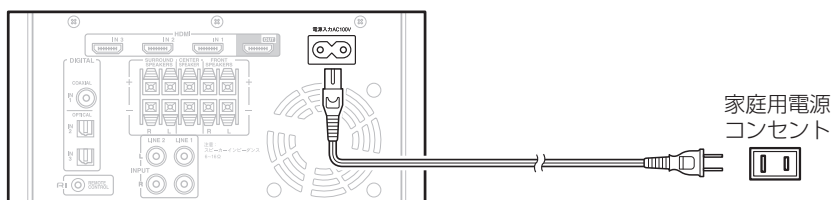
- 音量調整は本機で行ってください。
- 他のiPod関連商品と接続してご使用の場合は、iPod再生検出機能が働かない場合があります。
- ND-S1やRIドックにセットしているiPodの音量を調節したときは、ヘッドホンで聞く場合に事前に音量が適切かどうか確認してください。
- ND-S1に第5世代のiPod/iPod nanoをセットした場合、再生中はクリックホイールが働きませんので、再生・停止、その他の機能を使用するときは、リモコンで操作してください。

電源を入れる

電源コードを接続する

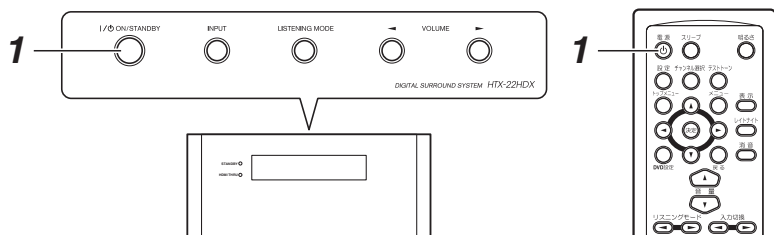
ご注意

- **付属の電源コード以外の電源コードは使用しないでください。**
  また、付属の電源コードは本機以外の機器には使用しないでください。故障や事故の原因となります。
- 電源コードのプラグを壁の電源コンセントに接続したまま、本機の電源入力AC100V端子から電源コードを抜いたり、つないだりすると感電する場合があります。電源コードを接続するときは、先に本体側の電源入力AC100V端子に接続し、抜くときは、最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。

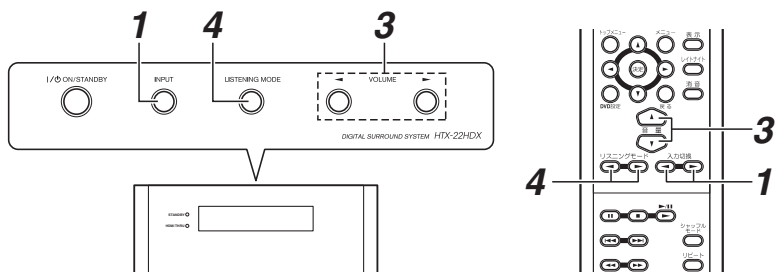
すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。
本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れる場合がありますのでコンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

電源コードのプラグを家庭用電源コンセントに接続すると、STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯し、スタンバイ状態になります。

電源を入れる

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

本体上面パネルのON（オン）/STANDBY（スタンバイ）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す

STANDBY（スタンバイ）インジケーターが消え、表示部が点灯します。

機器を選んで再生する

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

再生する機器を選ぶ

本体のINPUTボタンまたは、リモコンの入力切換◀/▶ボタンを押します。
ボタンを押すたびに入力が以下のように切り換ります。
再生したい機器が接続されている端子に合わせて入力を選んでください。
入力を選んだ後、約1秒後に切り換わります。

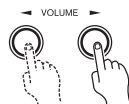
HDMI 1：HDMI IN 1端子に接続されている機器を再生するときに選びます。
↕
HDMI 2：HDMI IN 2端子に接続されている機器を再生するときに選びます。
↕
HDMI 3：HDMI IN 3端子に接続されている機器を再生するときに選びます。
↕
DIG 1：DIGITAL IN 1（COAXIAL）端子に接続されている機器を再生するときに選びます。
↕
DIG 2：DIGITAL IN 2（OPTICAL）端子に接続されている機器を再生するときに選びます。
↕
DIG 3（TV）：DIGITAL IN 3（OPTICAL）端子に接続されている機器を再生するときに選びます。
↕
LINE 1：LINE 1 IN端子に接続されている機器を再生するときに選びます。
↕
LINE 2：LINE 2 IN端子に接続されている機器を再生するときに選びます。

DIG1～3、LINE1または2の入力表示は接続している機器に合わせて変えることができます。
48ページ「入力表示を切り換える」をご覧ください。

2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。また、DVD対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

本体のVOLUME◀/▶ボタンまたはリモコンの音量▲/▼ボタンで音量を調整する

音量はMin·1·2……78·79·Maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント

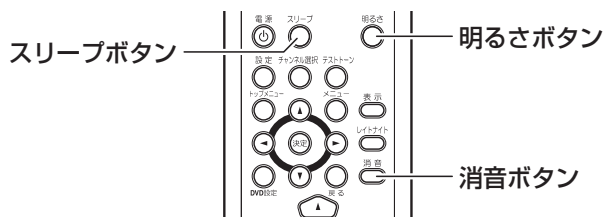
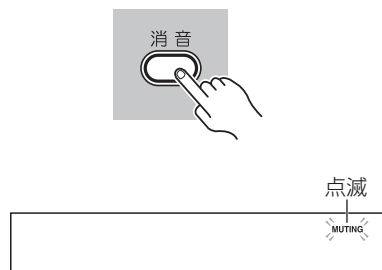
本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは31～35ページをご覧ください。

！ヒント 音が出ないとき

- **接続を確認する：** 選んだ入力とは異なる端子に接続されている場合があります。27ページの手順***1***で入力を切り換え、順番に再生して音が出るかを確認してください。
- **音量を確認する：** 部屋の大きさなどにもよりますが、音量の数値は通常30～45でお楽しみいただけます。音量が小さすぎないか、本体の表示部で音量の数値を確認してください。
- 必要に応じて各種設定を行ってください。（☞「設定をする」37～48ページ）

一時的に音量を小さくする

リモコンの消音ボタンを押す

音量がごく小さくなり、消音機能が働いている間MUTINGインジケーターが点滅します。

解除するには…

もう一度消音ボタンを押してください。
MUTINGインジケーターが消え、元の音量に戻ります。

音量調整をしたり、本機をスタンバイ状態にしたときも解除されます。

表示部の明るさを変える

リモコンの明るさボタンを押す

押すたびに表示部の明るさが3段階に切り換わります。

→ ふつう → やや暗い → 暗い ─┐（ふつうに戻る）

スリープタイマーを使う

リモコンのスリープボタンを押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定する

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になる設定になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

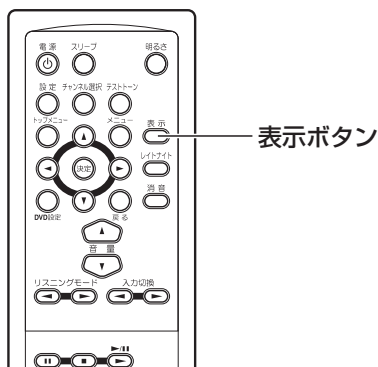
- スリープタイマー動作中は、SLEEPインジケーターが点灯します。

残り時間を確かめるには

スリープタイマー動作中にスリープボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。
ただし、残り時間が10分以下の表示のときに、再びスリープボタンを押すとスリープタイマーは解除されます。

スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまでくり返しスリープボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れてください。

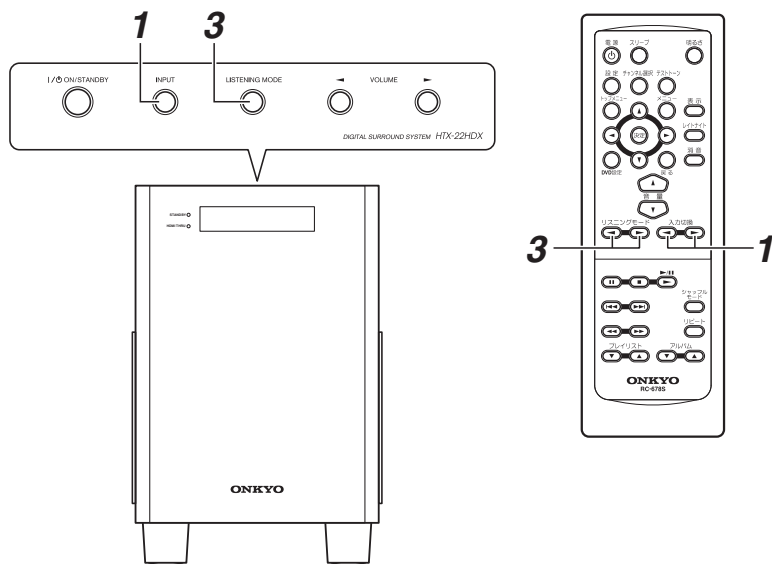
表示を確認する

表示ボタンをくり返し押す

表示ボタンを押すたびに、表示内容が下記のように切り換わります。
- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。

＊ アナログ信号が入力されているときは表示されません。PCM信号が入力されているときは、サンプリング周波数が表示されます。デジタル信号（PCM信号を除く）が入力されているときは、入力信号フォーマットが表示されます。
サンプリング周波数や入力信号フォーマット表示で約3秒経過すると元の表示に戻ります。

リスニングモードを選ぶ

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

本体のINPUT(インプット)ボタンまたはリモコンの入力切換◀ / ▶ボタンを(くり返し)押し、再生したい機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

本体のLISTENING(リスニング) MODE(モード)ボタンまたはリモコンのリスニングモード◀/▶ボタンを押して、リスニングモードを選ぶ

ボタンを押すたびに、モードが切り換わります。選べるモードは入力信号の種類によって異なります。33〜35ページの表をご覧ください。

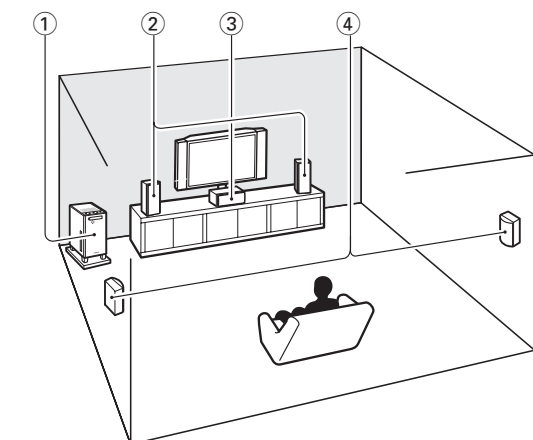
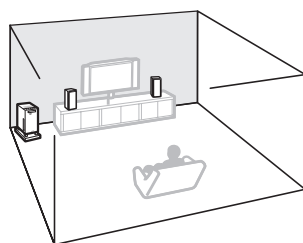
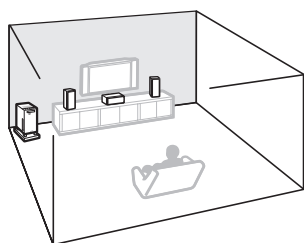
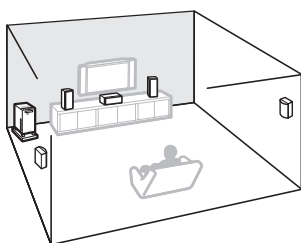
入力ソースの種類と対応するリスニングモード

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。

■入力ソースの種類

本機のリスニングモードは、下記の入力ソースで楽しむことができます。

MONO	モノラル音声です。
STEREO	ステレオ音声です。左右それぞれ独立した音声が出力されます。
5.1ch	5.1チャンネルサラウンド音声です。左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーの5チャンネルとサブウーファーチャンネルで構成されます。
7.1ch	7.1チャンネルサラウンド音声です。5.1チャンネルに2本の左右サラウンドバックスピーカーを追加することでより臨場感を高めています。 ご注意　本機では7.1チャンネル音声を5.1チャンネル音声で出力します。

■スピーカー配置例

①サブウーファー
②左右フロントスピーカー
③センタースピーカー
④左右サラウンドスピーカー

リスニングモードを楽しむ

■リスニングモードの種類

本機には以下のリスニングモードがあります。

リスニングモード	リスニングモードの説明	入力ソース	スピーカーの配置例
ダイレクト Direct	もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。サブウーファーの設定によらず選択することができます。ただし、サブウーファー音声要素（LFE）を含まないソースを再生している時には、サブウーファーから音が出ません。	MONO STEREO 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1
ステレオ Stereo	左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。		
モノ Mono	モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。		
マルチチャンネル Multich	PCMでマルチチャンネルソース再生時のモードです。	5.1ch	3.1 5.1
ドルビー　プロ　ロジック Dolby Pro Logic II	2チャンネルで収録された音楽や映画を5.1チャンネルで再生できます。 •Dolby PL II Movie（ムービー） VHSやDVDビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。 •Dolby PL II Music（ミュージック） CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDに適しています。 •Dolby PL II Game（ゲーム） ゲームディスクを楽しむときに使用できます。	STEREO	3.1 5.1
ドルビー　デジタル Dolby Digital	これらのモードは、入力されたソースをサラウンド音声処理しないでそのまま出力します。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1
ドルビー　デジタル　プラス Dolby Digital Plus		5.1ch 7.1ch	3.1 5.1
ドルビー　トゥルーエイチディー Dolby TrueHD		5.1ch 7.1ch	3.1 5.1
DTS		5.1ch	3.1 5.1
ハイ　リゾリューション　オーディオ DTS-HD High Resolution Audio		5.1ch 7.1ch	3.1 5.1
マスター　オーディオ DTS-HD Master Audio		5.1ch 7.1ch	3.1 5.1
エクスプレス DTS Express		STEREO 5.1ch	3.1 5.1
DSD		5.1ch	3.1 5.1

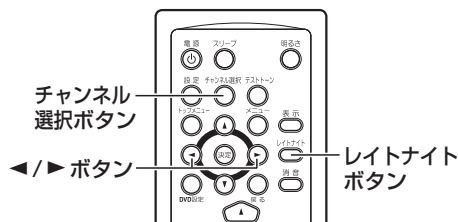
リスニングモード	リスニングモードの説明	入力ソース	スピーカーの配置例
DTS 96/24	DTS 96/24ロゴのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。	5.1ch	3.1 5.1
DTS Neo：6	2チャンネルで収録されたソースを5.1チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。 映画に最適なCinemaモードと音楽再生に最適なMusicモードが選択できます。 •Neo：6 Cinema リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2チャンネルのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に適しています。 •Neo：6 Music サラウンドチャンネルを使用することで通常の2チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルで収録されたCDなどに適しています。	STEREO	3.1 5.1

オンキヨー独自のリスニングモード

リスニングモード	リスニングモードの説明	入力ソース	スピーカーの配置例
Orchestra	クラシックやオペラに適したモードです。 音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。 大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。	MONO STEREO 5.1ch	5.1
Unplugged	アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージを作ります。		
Studio-Mix	ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。		
TV Logic	放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。 局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。		
Game-RPG	ロールプレイングゲームのときに選びます。		
Game-Action	アクションゲームのときに選びます。		
Game-Rock	ロックゲームのときに選びます。		
Game-Sports	スポーツゲームのときに選びます。		

リスニングモード	リスニングモードの説明	入力ソース	スピーカーの配置例
オールチャンネル ステレオ All Ch Stereo	BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。	MONO STEREO 5.1ch 7.1ch	3.1 5.1
フル モノ Full Mono	すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。		
シアター Theater ディメンショナル Dimensional	2つまたは3つのスピーカーであたかも5.1チャンネル再生しているようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。		2.1 3.1 5.1 フロント チャンネル Front 5.1ch (☞43ページ参照)

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？(☞21ページ)または、HDMI接続はしましたか？(☞19、20ページ)
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

レイトナイト機能を使う

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD再生時のみに効果があります。

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

レイトナイトボタンを押す

押すたびにモードが切り換わります。

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス

Off（オフ）：レイトナイト機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
Low（ロー）：音量幅を小さくします。
High（ハイ）：音量幅をさらに小さくします。

ドルビー TrueHD（トゥルー）

Auto（オート）：レイトナイト機能は、自動でOnかOffに設定されます。（お買い上げ時の設定）
Off（オフ）：レイトナイト機能をOffにします。
On（オン）：音量幅を小さくします。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD ソフトにのみ効果があります。
- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。

一時的に各スピーカーレベルを調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。
この設定は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

再生中にリモコンのチャンネル選択ボタンを押して、音量レベルを調整するスピーカーを選ぶ

2

◀/▶ボタンを押して、各スピーカーの音量レベルを調整する

◀ボタンを押すと音量が下がり、▶ボタンを押すと上がります。－12dB～＋12dBの範囲で設定できます。（サブウーファーは、－15dB～＋12dBの範囲で設定できます。）調整後、何も操作せず5秒たつと元の表示に戻ります。

！ヒント

入力ソースにサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

※調整した値を記憶させたい場合は、テストトーンボタンで記憶させることができます。
（☞41ページ）

設定をする

テレビ画面に表示する

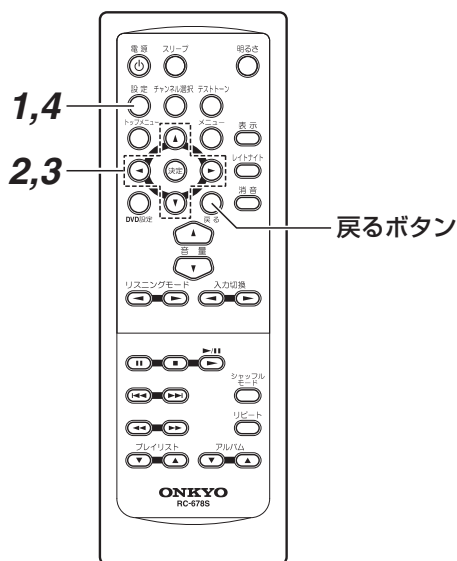
テレビをHDMI接続している場合には、テレビ画面にも表示されます。

Setup Menu

1. **Sp Config**
2. **Sp Distance**
3. **Level Cal**
4. **Audio Adjust**
5. **Source Setup**
6. **Volume Setup**
7. **HDMI Setup**
8. **AutoPowerDown**

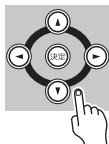
ご注意

表示されるのは、映像信号が入力されていないとき、または入力されている映像信号の解像度が480p、576p、720p、1080i、1080pのいずれかのときです。

操作のしかた

1

設定ボタンを押す

本体の表示部またはテレビ画面を見ながら操作してください。

2

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

▲/▼ボタンを押すごとに設定項目が切り換わり出ます。

項目	内容
スピーカー コンフィグ 1. Sp Config	接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。(☞39ページ)
スピーカー ディスタンス 2. Sp Distance	視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。(☞40ページ)
レベル キャリブレーション 3. Level Cal	各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるようにスピーカーの音量レベルを設定します。(☞41ページ)
オーディオ アジャスト 4. Audio Adjust	リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに設定します。(☞42ページ)
ソース セットアップ 5. Source Setup	入力ソースの設定をします。(☞43ページ)
ボリューム セットアップ 6. Volume Setup	ボリュームの設定をします。(☞44ページ)
エイチディーエムアイセットアップ 7. HDMI Setup	HDMI接続した場合の設定をします。(☞44～46ページ)
オート パワー ダウン 8. AutoPowerDown	電源を自動的にスタンバイ状態にする設定をします。(☞46ページ)

3

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する

4

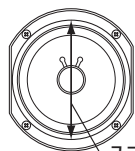
設定ボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント 1つ前のメニューに戻るには、戻るボタンを押してください。

スピーカー環境の設定（1. Sp Config）

接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。

スピーカーの大きさの目安

目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径16cm以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

Subwoofer

サブウーファーの有/無を設定します。

Yes：サブウーファーを使用する場合
No：サブウーファーを使用しない場合

Front

フロントスピーカーの大きさを選びます。

Small：小型のフロントスピーカーを接続している場合
Large：大型のフロントスピーカーを接続している場合

Subwooferの設定で「No」を選択した場合、フロントスピーカーは「Large」に固定されるため、この項目は選択できません。

Center

センタースピーカーの設定をします。

Small：小型のセンタースピーカーを接続している場合
Large：大型のセンタースピーカーを接続している場合
None：センタースピーカーを接続していない場合

ご注意

Frontスピーカーの設定で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

Surround

サラウンドスピーカーの設定をします。

Small：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
Large：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
None：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

Frontスピーカーの設定で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

Crossover

クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。
目安としてサブウーファーを使用する場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーを使用しない場合は本ページで最初に「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。

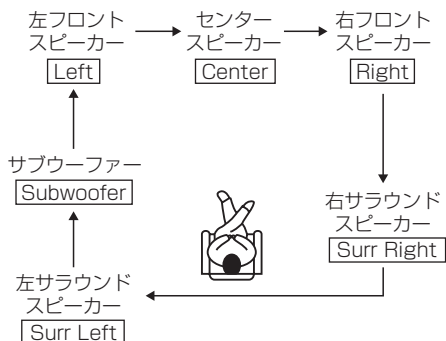
ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
20cm 以上	40/50/60
16〜20cm	80
13〜16cm	100
9〜13cm	120
9cm 以下	150(初期設定)/200

Double Bass

サブウーファーを「Yes（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Large」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。

On：サブウーファーを強調します。
Off：サブウーファーを強調しません。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（2. Sp Distance）

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

上図の順にスピーカーが切り換わりますので、それぞれのスピーカーまでの距離を設定してください。
各スピーカーは、0.3m ～ 9.0m（1ft ～ 30ft）の範囲で設定できます。

Unit

設定する単位を選びます。

meters：距離をメートルで設定する。
feet：距離をフィートで設定する。

Left

左フロントスピーカーまでの距離を設定します。

Center*1

センタースピーカーまでの距離を設定します。

Right*1

右フロントスピーカーまでの距離を設定します。

Surr Right*2

右サラウンドスピーカーまでの距離を設定します。

Surr Left*2

左サラウンドスピーカーまでの距離を設定します。

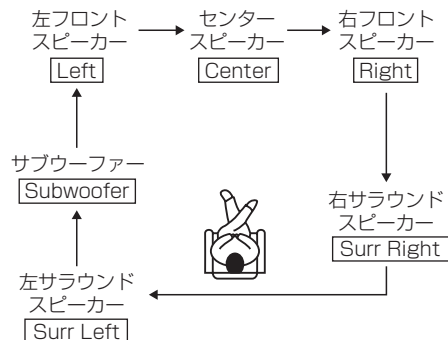
Subwoofer*1

サブウーファーまでの距離を設定します。

*1 左フロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。
*2 左フロントスピーカーで設定した距離の−4.5mから＋1.5mの範囲で調整できます。

「スピーカー環境の設定」で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。

スピーカーの音量レベル調整（3. Level Cal）

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。
- ミューティング中は、設定できません。

「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

サブウーファーは、－15dB～＋12dBの範囲で、それ以外のスピーカーは、－12dB～＋12dBの範囲で設定できます。

Left（レフト）

左フロントスピーカーのテスト音を調整します。

Center（センター）

センタースピーカーのテスト音を調整します。

Right（ライト）

右フロントスピーカーのテスト音を調整します。

Surr Right（サラウンド ライト）

右サラウンドスピーカーのテスト音を調整します。

Surr Left（サラウンド レフト）

左サラウンドスピーカーのテスト音を調整します。

Subwoofer（サブウーファー）

サブウーファーのテスト音を調整します。

ご注意

「スピーカー環境の設定」で、「No（ノー）」または「None（ナン）」を選択したスピーカーは、設定できません。

！ヒント

テストトーンボタンでテスト音を出して設定することもできます。

① テストトーンボタンを押して、テスト音を出します。
② 次に◀/▶ボタンでテスト音を調整し、チャンネル選択ボタンでスピーカーを切り換えます。
③ もう一度テストトーンボタンを押すと、終了します。

音響効果を調整する（4. Audio（オーディオ） Adjust（アジャスト））

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整しておくことができます。

■ Multiplex（マルチプレックス）/Mono（モノ）時の設定をする

Input（インプット） (Mux（マルチプレックス）)

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。
表示ボタンを押して､表示部に音声の数が「1+1」と表示されたら音声多重放送です。

Main（メイン）：主音声を出力します。
（お買い上げ時の設定）

Sub（サブ）：副音声を出力します。

M/S：主音声と副音声の両方を出力します。

Input（インプット） (Mono（モノ）)

2チャンネルで収録された入力信号を「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

L+R：左右チャンネルの信号を両方再生します。
（お買い上げ時の設定）

L（レフト）：左チャンネルの信号を再生します。

R（ライト）：右チャンネルの信号を再生します。

■ PLⅡ Music（ミュージック）時の音質を調整する

ご注意

- 2チャンネル収録された入力信号のみに効果があります。
- スピーカーを2チャンネル（左右フロントスピーカーのみ）に設定しているときは､設定できません。

Panorama（パノラマ）

前方の音場を横方向に広げることができます。

On（オン）：パノラマ効果をオンにします。

Off（オフ）：パノラマ効果をオフにします。
（お買い上げ時の設定）

Dimension（ディメンション）

音場を前方または後方へ移動させることができます。お買い上げ時の設定は「0」に設定されています。

！ヒント

- 「0」を中心に、+1、+2、+3にすると後方へ、−1、−2、−3にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

Center（センター） Width（ウイズス）

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic IIでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、仮想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。お買い上げ時の設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択できます。

■ Neo（ネオ）:6Music時の音質を調整する

Center（センター） Image（イメージ）

この設定では、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。「0」に設定しているときにフロント音場が中央になり、「5」に設定するとフロント音場が左右に広がります。お買い上げ時の設定は「2」ですが、0〜5の範囲で選択できます。

■ 自然で深みのある低音を調整する（EX.BASS）

EX. BASS

映画や音楽ソフト再生時に自然で深みのある低音を調整することができます。

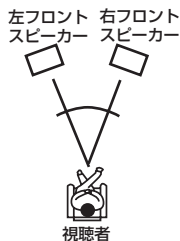
Off：EX.BASSは働きません。

On：EX.BASSが働きます。

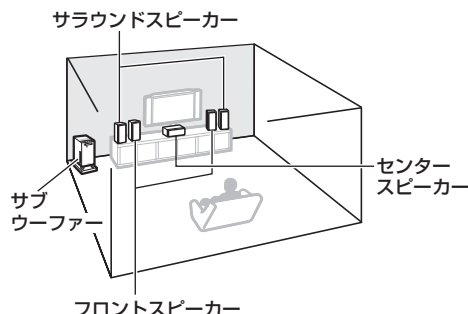
■ シアターディメンショナル時の調整をする（T-D）

Lstn Angl

視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置が理想です。Wide（広い）、Middle（中間）とNarrow（狭い）の中から選べます。

お買い上げ時の設定はMiddleです。

Front 5.1ch

接続しているスピーカーをすべて前方に置いてシアターディメンショナルを楽しむ場合の設定です。

（スピーカーを前方に置いた配置例）

Yes：スピーカーを前方に置いている場合に選びます。

No：通常の配置にしている場合に選びます。（お買い上げ時の設定）

ソースの設定をする（5. Source Setup）

■ 機器間の音量差を減らす

IntelliVol

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。この表示を出したまま、入力ソースを切り換えて音量を聞き比べながら設定すると便利です。

- −12dB～＋12dBの範囲の調整できます。

■ 映像と音声の再生にズレがあるとき

A/V Sync

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。0～100ms（ミリセカンド：千分の１秒）の範囲を10msステップで、音声の遅延を調整することができます。

再生される映像を見ながら調整します。

0～100msの範囲を10msステップで調整できます。映像と音声が同期するように、音声の遅延を調整してください。

リップシンク対応機器の場合は、リップシンク機能によって補正された遅延時間が反映されます。（☞45ページ）

ご注意

この機能は、リスニングモードを「Direct」にしているときのアナログ信号には働きません。

■ 圧縮信号の音質を良くする

M. Optimizer

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に便利です。

Off：Music Optimizer機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

On：Music Optimizer機能をオンにします。

ご注意

この機能は、48kHz以下のPCM信号とアナログ信号に働きます。また、リスニングモードが「Direct」のときは、効果がありません。

ボリューム設定をする（6. Volume Setup）

■ 最大音量を設定する

Max Volume

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大出力レベルを設定することができます。30～79の範囲内で設定できます。
設定しないときは「Off」を選びます。

■ パワーオン時音量を設定する

Pon Volume

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
1･2…79･Maxの範囲内で設定できます。
ただし、Max Volumeを設定している場合は、その値までしか設定できません。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last」を選びます。

HDMI設定をする（7. HDMI Setup）

■ オーディオテレビアウト設定

Audio TV Out

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機のHDMI OUT端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聞きたいときなどに設定します。通常は「Off」にしておいてください。
入力信号やテレビによっては、Onにしても音が出ない場合があります。

Off ： 出力しません。（お買い上げ時の設定）
On ： 出力します。

ご注意

- Audio TV Outの設定が「On」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。
- TV Ctrlの設定が「On」の場合は、「Auto」になります。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「On」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- この設定を「On」にしているとき、またはTV Ctrlの設定を「On」にしているときにテレビを聞いていると、本機の音量を上げると本機に接続しているスピーカーから音が出る場合があります。本機に接続しているスピーカーの音を止めるには、設定を変更するか、テレビの設定を変更、または本機の音量を下げてください。

■ リップシンク設定

Lip Sync（リップ シンク）

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

Disable（ディスエイブル）：自動では補正しません。
（お買い上げ時の設定）

Enable（イネイブル）：自動的に補正します。

ご注意

- リップシンク機能はHDMIリップシンク対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- リップシンク機能によって補正される遅延時間を、A/V Syncメニューで確認することができます。（☞43ページ）

■ HDMIコントロール設定

HDMI Ctrl（コントロール）

本機とHDMI接続したCEC規格対応機器やRIHD*対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

Off（オフ）：RIHD Controlを使用しません。
（お買い上げ時の設定）

On（オン）：RIHD Controlを使用します。

ご注意

- 「On」に設定しているときは、接続しているRIHD対応機器の名前と「RIHD On」が下記のように表示部に表示されます。
  「Search」→「機器の名前」→「RIHD On」
  本機が接続機器の名前を受信できないときは、「Player」、「Recorder」などと表示されます。
- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「Off」に設定してください。
- 「On」に設定して、おかしな動作をする場合は「Off」にしてください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

■ ARC（オーディオリターンチャンネル）設定

ARC（オーディオリターンチャンネル）

ARC（オーディオリターンチャンネル）は、HDMI接続しているテレビからの音声を本機のHDMI OUT端子に送る機能です。この機能を使用するためにはテレビ側もARCに対応している必要があります。

Off（オフ）：ARC機能を使用しないときに選択してください。

Auto（オート）：ARC機能を使用するときに選択してください。テレビからの音声信号を本機のHDMI OUT端子に送ることができます。
（お買い上げ時の設定）

ご注意

- ARCはHDMI Ctrl設定が「On」のときに設定できます。
- テレビの入力を切り換えると、本機の入力は自動的に「ARC（TV）」になります。

■ パワーコントロール設定

Power Ctrl（パワー コントロール）

HDMIで接続されたRIHD対応機器と電源連動させたい場合に「On」にします。
HDMI Ctrl設定がOnのときは、自動的にOnに設定されます。

Off：Power Ctrlを使用しません。

On：Power Ctrlを使用します。
（お買い上げ時の設定）

ご注意

- HDMI Ctrl設定が「On」のときに設定できます。
- この機能はPower Control機能に対応しているRIHD対応機器と接続しているときのみ動作します。ただし、接続機器の状態によっては連動しない場合があります。
- 「On」に設定しているときは、以下のような状態になります。
  - ＊ **HDMI THRU機能が働きます。**
    これはHDMI入力端子から入力された映像音声信号がHDMI出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力される機能で本機の電源がオンでもスタンバイ状態でも働きます。
  - ＊ この機能が働いているときは、スタンバイ状態のときにHDMI THRUインジケーターがオレンジ色に点灯します。
  - ＊ この機能が働いているときは、本機の待機時消費電力が増えます。
- 接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

■ TVコントロール設定

TV Ctrl

HDMI接続した RIHD 対応テレビから、本機をコントロールしたいときに「On」にします。

Off：TV Ctrlを使用しません。

On：TV Ctrlを使用します。（お買い上げ時の設定）

ご注意

- テレビが対応していない場合や、対応しているかどうか分からないときは、「Off」に設定してください。
- 接続した機器の取扱説明書もご覧ください。
- この設定は、HDMI CtrlとPower Ctrlの両方の設定が「On」の場合に変更できます。

> ご注意
> HDMI Ctrl、Power Ctrl、TV Ctrlの設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、再度入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。

本機の電源を自動的にスタンバイ状態にする（8. AutoPowerDown）

本機の電源を自動的にスタンバイ状態にすることができます。

■ 自動電源オフ設定

AutoPowDown

本機に約2時間入力が無かったり、約2時間本機を操作しなかった場合、本機の電源を自動的にスタンバイ状態にすることができます。

Off：AutoPowerDown機能は働きません。（お買い上げ時の設定）

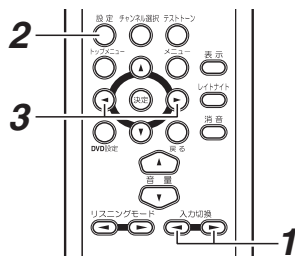
On：AutoPowerDown機能が働きます。

ご注意

設定が「On」のときは、信号が入力されていてもそのレベルが低い場合、約2時間後に本機がスタンバイ状態になることがあります。

デジタル入力モードをDTS、PCMに固定する

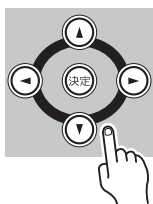
DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

1

リモコンの入力切換◀/▶ボタンで設定する機器を選ぶ

2

設定ボタンを約3秒間押し続ける

現在のデジタル入力モード「Fixed Mode（フィックスド モード）：Auto（オート）」が表示されます。

3

「Fixed Mode（フィックスド モード）：Auto（オート）」表示中（約3秒間）に◀/▶ボタンを（くり返し）押して、デジタル入力モードを選ぶ

押すたびに、下記のように表示が切り換わります。

→ Auto ←→ PCM ←→ DTS ←

Auto（オート）（お買い上げ時の設定）：

デジタル信号を再生します。

PCM：

AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。2チャンネルのPCMだけが再生できます。

DTS：

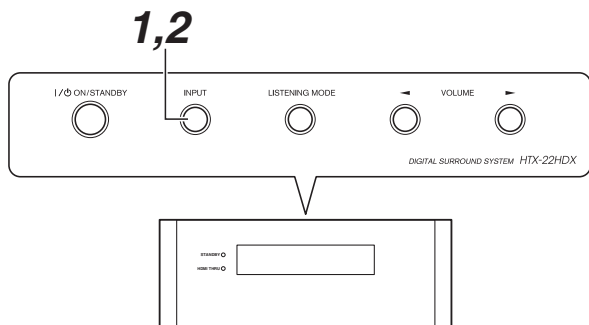
AutoでDTS-CDを再生するとき、DTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS-HD以外のDTS音声を再生できます。

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

入力表示を切り換える

本機とRI端子付きオンキヨー製品を接続してシステム機能をご使用になるときは、接続した機器に合わせて入力表示を切り換えてください。

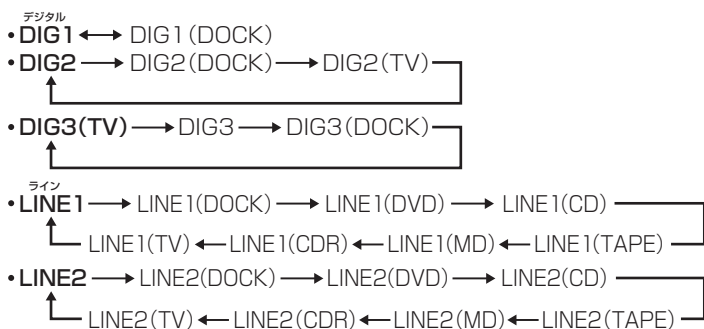
- DOCK…RIドック、ND-S1
- DVD…DVDプレーヤー
- CD…CDプレーヤー
- TAPE…カセットテープレコーダー
- MD…MDレコーダー
- CDR…CDレコーダー

TVについて
本機とRIHD対応テレビを接続しているときは、入力表示をTVに切り換えてください。

1 INPUT

本体のINPUTボタンをくり返し押し、切り換えたい入力名称を表示させる

2 INPUT

本体のINPUTボタンを約3秒押して変更したい名称を選ぶ

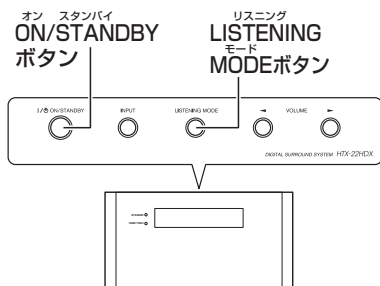
INPUTボタンをくり返し押すたびに以下のように切り換わります。

ご注意
表示名はすべての入力に対して1つしか使用することができません。
たとえばDIG1の入力表示名をDIG1（DOCK）にすると、その他の入力は「DOCK」を選ぶことができなくなります。

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他の機器に原因がある場合もありますので、他機器の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法やFAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

！ヒント **修理を依頼される前に**

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときに、本機のマイコンをリセットすることで、トラブルが解消されることがあります。修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

マイコンのリセットについて

登録したレベル設定などをすべてお買い上げ時の設定に戻したいときは、以下の手順で本機のマイコンをリセットできます。

電源の入った状態で本体のLISTENING（リスニング）MODE（モード）ボタンを押しながら、ON（オン）/STANDBY（スタンバイ）ボタンを押す

表示部に「Clear（クリア）」と表示され、本機の設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

電　源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

音　声

音声が出ない

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（27）
- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーコードがショートしていないか、本機背面の端子、コード、スピーカー背面端子をご確認ください。（17、18）
- スピーカーコードの⊕、⊖は正しく接続されているか、スピーカーコードのビニール部分がスピーカー端子にはさまっていないか確認してください。（17）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin･1･2･･･78･79･Maxまで調整できます。一般のご家庭で50前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。（28）
- 接続した再生機器側で出力設定を確認してください。
- HDMI入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定を変更してください。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。（47）

エラーメッセージが出る
- 操作中、表示部に表示されるメッセージは以下の内容を意味します。
  Not available： その機能は使えないということを意味します。たとえば、ドルビーデジタル以外の入力信号のためレイトナイト機能が設定できないときなどに表示されます。
  Muting On： ミューティング（消音）機能がONになっているため設定できません。

DTS、PCMのインジケーターが点滅している
- デジタル入力モードを固定している場合、その固定されたフォーマット以外の信号が入力されています。設定を確認し、デジタル入力モードを「Auto」にしてください。 （47）

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない/サブウーファーから音が出ない
- リスニングモードによっては、音声の出力されないスピーカーがあります。他のリスニングモードを選んでください。
- 再生するソースによっては、ドルビープロロジックIIのリスニングモードは音が出にくい場合があります。
  5.1ch対応のDVDソフトやBSデジタルの5.1ch放送は臨場感を表現する信号が含まれていることが多いですが、CDや一般の放送には含まれていないのが一般的ですので、他のリスニングモードをお選びください。
- パソコンやゲーム機、DVDプレーヤーなどの接続した再生機器側で出力設定を確認してください。

音が良くない
- スピーカーコードのプラス⊕/マイナス⊖が正しく接続されているかご確認ください。（17、18）
- スピーカーの「有/無とクロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を行ってください。（39〜41）
- ピンコードのプラグは奥まで差し込んでください。 （22）

レコードプレーヤーの音が小さい
- レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵か、お確かめください。
  内蔵していないレコードプレーヤーの場合は別途フォノイコライザーが必要です。

レコードプレーヤーが再生できない
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。

〈音質について〉
電源投入後10〜30分程度経過した方が音質は安定します。

特定のスピーカーから音が出ない

テスト音は出ますか？

スピーカーの音量レベル調整で、接続したすべてのスピーカーから個別にテスト音が出ているか確認してください。 （41）

表示部にスピーカーの表示は出るが、テスト音が出ない
- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  コードが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テスト音も出ず、表示部にも表示されない
- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。スピーカーの「有/無とクロスオーバー周波数」の設定を行ってください。 （39）

テスト音は出るが、音が出ない
- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る
- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。 （17、18）

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない
- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジックIIにすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない
- リスニングモードが「Stereo（ステレオ）」、「Mono（モノ）」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。

サブウーファーから音が出ない
- 入力ソースにサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聞くことができない(Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）、DTSやAACのフォーマットにならない)

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聞くためには、デジタル接続が必要です。

- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力が OFF になっていることがあります。

希望するリスニングモードが選べない
- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「リスニングモードの種類」でご確認ください。 (33 ～ 35)

音量調整が80(Max)以下で終わる
- 設定画面を使ってスピーカーの音量調整をした場合は、音量最大値が変わることがあります。

ノイズが出る
- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない
- 再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHDのいずれかになっているか確認してください。 (36)

DTS信号について
- DTS 信号を再生しているときは、本機の DTS インジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても DTS インジケーターが点灯したままになります。このため、DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI 入力音声が頭切れする
- HDMI信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

リモコン

リモコンが働かない

- 電池の極性（⊕、⊖）が、表示通り正しく入っているか確認してください。（10）
- 電池を 2 本とも新しいものと交換してみてください。
  （種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用はさけてください）（10）
- リモコンと本体の間が離れすぎていませんか？リモコンと本体の間に障害物がありませんか？（10）
- リモコン受光部に強い光（インバータ蛍光灯や直射日光）が当たっていませんか？（10）

オンキヨー製DVDプレーヤーやRIドックの操作ができない

- オンキヨー製他機器と RI ケーブルが正しく接続されているか確認してください。RI ケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RI ケーブルだけでは正しく連動しません）（23）
- リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。（10）
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（48）

他機器との接続

接続した機器の音が出ない

- 入力切り換えを確認してください。
- オーディオ用光デジタルケーブルが折れ曲がったり損傷していませんか？
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、別売のフォノイコライザーを中継してください。

テレビの映像がにじむ

- テレビからスピーカーを離してください。

その他

多重音声の言語を切り換えたい

- 「Input (Mux)」で主音声 / 副音声を選択します。（42）

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。（40）

音量に関する設定を希望通りの数字にできない

- ボリューム設定をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。（44）

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

HDMIについて

■ HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ/プロジェクター、ブルーレイディスク/DVDプレーヤーなどの映像機器間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。
従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMIケーブルを1本接続するだけで、コントロール、デジタルビデオおよび最大8チャンネルのオーディオデジタル信号（2チャンネルPCM、マルチチャンネル音声、マルチチャンネルPCM）を送ることができます。
HDMIビデオ信号は、従来のDVI（Digital Visual Interface）*[1]と互換性があり、HDMI-DVI変換ケーブルを用いてテレビやディスプレイのDVI端子と接続することもできます。（テレビやディスプレイによっては、働かないこともあります。）
本機は、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）*[2]を採用していますので、HDCP対応機器の映像を表示することができます。

本機のHDMIインターフェースは、下記標準に基づいています。
Audio Return Channel、3D、x.v.Color、Deep Color、リップシンク、DTS-HD マスター オーディオ、DTS-HD ハイリゾリューションオーディオ、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DSD、AACおよびマルチチャンネルPCM

対応音声フォーマット

- 2チャンネルリニアPCM（32〜192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1ch、32〜192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTSエクスプレス、DTS-HD マスターオーディオ、DSD、AAC）

ただし、プレーヤー側も上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

■ 著作権保護について

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）に対応していますので、本機とHDMI接続する機器もHDCPに対応していることが必要です。

[1] DVI（Digital Visual Interface）：DDWG[3]が、1999年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

*[2] HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要になる。

*[3] DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Compaq、富士通、Hewlett Packard、IBM、NEC、Silicon Imageなどが中心となって運営するディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

ご注意

- HDMIビデオ信号は、DVIと互換性があり、HDMI-DVI変換ケーブルを用いてテレビやディスプレイのDVI端子と接続することができますが、動作を保証するものではありません。また、PC（パソコン）からの映像には対応していません。（DVIは映像のみに対応していますので、音声は別途接続が必要です。）
- HDMI音声信号は、接続機器により制約されることがあります。HDMI接続している機器から入力される画像の品質がよくなかったり、音声が出なかったりするときは、接続機器側の設定を確認してください。詳しくは、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビーデジタルプラス（Dolby Digital Plus）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネルをサポートします。

ドルビー TrueHD（Dolby TrueHD）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数で最大5.1チャンネルをサポートします。

DSD（Direct Stream Digital）
スーパーオーディオCDに採用された方式です。100kHzをカバーする再生周波数範囲と可聴帯域内120dB以上のダイナミックレンジが確保できるので、原音に近い音声で録音・再生ができます。

DTSデジタルサラウンド(DTS Digital Surround)
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS Express
DTS社が開発した最大5.1ch、48kHzのロービットレート音声です。HD DVDのサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

DTS96/24
DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

DTS-HDハイレゾリューションオーディオ（DTS-HD High Resolution Audio）
DTS社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネルをサポートします。

DTS-HDマスターオーディオ（DTS-HD Master Audio）
DTS社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数で最大5.1チャンネルをサポートします。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含むすべての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のMPEG音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で同軸コードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換するときの精度。44.1kHzは1秒間に44100回、96kHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限される最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1つ、フロントスピーカー 2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

主な仕様

■ アンプ内蔵サブウーファーシステム(HTX-22HDXPAW)

形式	アンプ内蔵バスレフ型
アンプ部	
入力感度/インピーダンス	150mV/47kΩ(FL/FR)
実用最大出力	30W×5(6Ω、1kHz、1ch駆動時、JEITA) 60W(SW)(3Ω、100Hz、JEITA)
サブウーファー再生周波数範囲	35Hz〜200Hz
アンプ再生周波数範囲	FL/FR:10Hz〜100kHz(Direct時) FL/FR/C/SL/SR:150Hz〜20kHz、+1/−3dB SW:20Hz〜150Hz、+1/−3dB(Crossover:150Hz時)
SN比	105dB(LINE1/LINE2 Direct時、IHF-A)
キャビネット内容積	8.4リットル
外形寸法(幅×高さ×奥行)	217×337×310mm(サランネット、ターミナル突起部含む)
質量	9.5kg
HDMI	入力3(IN1/IN2/IN3) 出力1(OUT) 映像解像度 1080p 音声フォーマット Dolby TrueHD、DTS Master Audio、DVD- Audio、DSD インターフェース 3D、Audio Return Channel、Deep Color、x.v. Color、LipSync、CEC
音声入力	デジタル 光:2、同軸:1 アナログ LINE1、LINE2
音声出力	スピーカー(FL、FR、C、SL、SR)
その他	RI 1
使用スピーカー	16cmコーン型
電源	AC100V(50/60Hz)
消費電力	110W
待機時消費電力	0.2W
防磁設計	無

■ フロントスピーカーシステム(HTX-22HDXST)

形式	フルレンジバスレフ型
定格インピーダンス	6Ω
最大入力	40W
定格感度レベル	80dB/W/m
定格周波数範囲	70Hz〜20kHz
キャビネット内容積	1リットル
外形寸法(幅×高さ×奥行)	101×161×111mm(サランネット、ターミナル突起部含む)
質量	0.7kg
使用スピーカー	8cm OMFコーン型
ターミナル	プッシュ式
防磁設計	有(JEITA)

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名　HTX-22HDX
- ▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー /レコーダーをご使用になるには

RIHDはオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機では、HDMI規格で定められているCEC（Consumer［コンシューマー］ Electronics［エレクトロニクス］ Control［コントロール］）を使用した連動を行うことができます。CECに対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD対応機器と推奨製品以外での連動は保証いたしません。

■ RIHDと互換性のある機器について

下記の製品がRIHDと互換性があります。(2010年2月現在)最新の情報は、オンキヨーホームページでご確認ください。

テレビ【順不同】
- パナソニック製のビエラリンク対応テレビ
- 東芝製のレグザリンク対応テレビ
- シャープ製のテレビ（対応している機種についての最新の情報は、オンキヨーホームページでご確認ください。）

プレーヤー、レコーダー【順不同】
- オンキヨー製、インテグラ製のRIHD対応プレーヤー
- パナソニック製のビエラリンク対応プレーヤー、レコーダー（パナソニック製のビエラリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- 東芝製のレグザリンク対応プレーヤー、レコーダー（東芝製のレグザリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- シャープ製のプレーヤー、レコーダー（シャープ製のテレビと合わせてお使いの場合のみ）

※上記以外の機器でもHDMI規格のCECに対応していれば連動する可能性がありますが、動作は保証されません。

ご注意

本機にHDMIを介して他のAVセンターを接続しないでください。

■ RIHD接続をするとできる操作

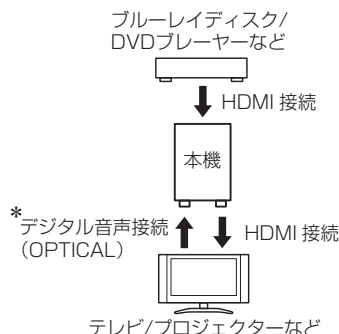
RIHDと互換性のあるテレビの場合

本機をRIHDと互換性のあるテレビに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。
- テレビの電源をスタンバイ状態にすると本機もスタンバイ状態に切り換わります。
- テレビのメニュー画面で、音声を本機に接続したスピーカーから音を出すか、あるいはテレビのスピーカーから音を出すかを設定できます。
- テレビのアンテナや外部入力の映像・音声も本機に接続したスピーカーから音を出すことができます。(HDMIケーブル以外に光デジタルケーブル等の接続が必要です。)
- テレビのリモコンで本機の入力を選択できます。
- テレビのリモコンで本機の音量調整やその他の操作ができます。

RIHDと互換性のあるプレーヤー /レコーダーの場合

本機をRIHDと互換性のあるプレーヤー /レコーダーに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。
- プレーヤー /レコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器の接続されているHDMI 入力に切り換わります。
- 本機に付属のリモコンでプレーヤー / レコーダーの操作ができます。

※お使いの機器によっては、すべての機能が働くわけではありません。

■ 接続と設定のしかた

1. 本機のHDMI OUT（アウト）端子にテレビのHDMI入力を接続する

2. テレビからの音声出力を、光デジタルケーブルで本機のDIGITAL（デジタル） IN（イン）3（OPTICAL（オプティカル））端子に接続する

＊HDMI 1.4対応テレビでARC（オーディオリターンチャンネル）機能をご使用になるときは、この接続は必要ありません。

3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー（レコーダー）のHDMI出力を本機のHDMI IN1端子に接続する

4.「HDMI Setup（セットアップ）」の設定をそれぞれ「On（オン）」にする

- HDMI Ctrl（コントロール）：On
- ARC：Auto
- Power Ctrl：On
- TV Ctrl：On

各設定の詳細説明は（☞45、46ページ）をご覧ください。

5. 設定の確認をする

① 全ての接続機器の電源を入れます。
② テレビの電源を切り、リンク動作によって接続機器の電源が自動で切れることを確認します。
③ DVDプレーヤー/レコーダーの電源を入れます。
④ DVDプレーヤー/レコーダーを再生して、以下のことを確認します。

- 本機の電源が自動で入り、DVDプレーヤー/レコーダーを接続している入力が選択される。
- テレビの電源が自動で入り、本機を接続している入力が選択される。

⑤ お使いのテレビの取扱説明書をご覧になりながら、テレビのメニュー画面から「テレビのスピーカーの使用」を選び、テレビのスピーカーから音が出て本機に接続したスピーカーから音が出ないことを確認します。
⑥ テレビのメニュー画面から、「本機に接続したスピーカーの使用」を選び、本機に接続したスピーカーから音が出てテレビのスピーカーから音が出ないことを確認します。

ご注意

初めてお使いになるときや、各機器の設定を変えたとき、各機器の主電源をオフにしたとき、コンセントから電源コードを抜いたり停電したときも上記の操作を行ってください。

6. リモコンで操作します

操作できるボタンについては24ページをご覧ください。

ご注意

- DVDオーディオ、スーパーオーディオCDの音声はテレビのスピーカーから音声が出ないことがあります。DVDプレーヤーの音声出力設定を2ch PCMに設定すれば、テレビのスピーカーから音を出すことができるようになります。（プレーヤーによっては、できないことがあります。）
- テレビのスピーカーから音を出す操作をしても、本機の音量調整や入力の切り換え操作をすると、本機に接続したスピーカーから音が出るようになります。テレビから音を出したいときは、もう一度テレビの操作をやり直してください。
- RIHD対応機器と接続するときは、RIケーブルは接続しないでください。
- テレビの入力を、本機が接続されたHDMI端子以外を選ぶと、本機の入力は「DIG（デジタル）3（TV）」に切り換わります。
- 本機は、必要と判断したとき、連動して自動的にパワーオンします。RIHD対応テレビやプレーヤー・レコーダーと接続してお使いの場合でも、必要ないときは本機はパワーオンしません。テレビ側の設定で、音声をテレビから出力するように設定していると、連動してパワーオンしないことがあります。
- 組み合わせる機器により、本機との連動動作が働かない場合があります。この場合は、本機を直接操作してください。
- 本機のリモコンで、RIHDを利用してプレーヤー/レコーダーの操作ができないときは、その機器がRIHDやCECのリモコン操作に対応していないことが考えられます。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　　(　　)

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター

☎050-3161-9555　受付時間　10：00〜18：00
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）

サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

G1002-1

SN 29400183